

調査報告書

2026年2月13日

小牧市議会議長 様

会派名 こまき民主市議団  
代表者氏名 小沢国大



調査を行いましたので、その結果を報告します。

記

1 調査日

2026年2月3日（火） ～ 2月4日（水）

2 調査先及び調査項目

(1) 調査先：大分県宇佐市

調査項目：閉校となった学校施設の利活用について

(2) 調査先：山口県下関市

調査項目：学校の統廃合と小中一貫校について

3 参加議員

小川真由美

谷田貝将典

小沢国大

4 調査内容

別紙のとおり

① 日時

2026年2月3日（火）午後1時30分から午後3時00分

② 訪問先

宇佐市役所

③ 説明者

宇佐市議会総務常任委員会 川谷委員長

議会事務局 秋場主幹

総務部 川谷主任

恵良課長

古居主幹

④ 調査項目

閉校となった学校施設の利活用について

⑤ 視察先の選定理由や目的

学校統廃合のあり方の参考と閉校となった学校施設の利活用についての取組みの視察を行い、今後の小牧市へ還元するため

⑥ 視察項目の概要説明

（導入経緯・内容・実施状況・効果・課題等）

旧深見中学校が廃校となり、活用を望む声が多く寄せられた。そこで誕生したのが「地域交流ステーション」。

平成25年 地域大学連携協働実習拠点施設と活用できるよう改修し、現在、スポーツ団体や大学、高齢者が利用している。

予算 指定管理

2021年 8,219,612円

2022年 7,718,230円

2023年 8,138,000円

2024年 8,195,200円

平成23年4月

深見ふれあい館として地域活動の拠点施設となった

利用状況は、令和6年 47%

⑦議員からの主な質疑

質1 今後の課題

答1 指定管理費が、主に人件費の増加に伴い増額し財政圧迫。

施設老朽化、指定管理者の高齢化、後継者不足。

条例で定めた設置目的と現在の乖離。

大学の講義やフィールドワーク実践場所として期待。

地元と行政の地域活性化、学生視点の地域課題の解決を期待。

質2 施設内に食事を取るレストラン的な場所はあるのか。

答2 ワンコインやリーズナブルで食べられる食堂あり。

質3 廃校後、防災拠点としての機能は。

答3 引き続き地域の方々が集まれる拠点としていく。

質4 避難所問題、選挙投票所問題について

答4 投票所はなんとかなるが、避難所の指定は防災で総合的にみるため課題がある。廃校してもすぐ建物が悪くならないため、体育館などの耐震性は良い。問題は出るが、それよりも教育的視点のみで決断していった。

⑧議員の意見

廃校後に「地域交流ステーション」を作ったのは良いものの、維持費や運営費に予算がかかり、その割に活用目的も趣旨とズレたり、管理者の高齢化や施設の老朽化で今後の悩みがある。作る前に、何のために作るのかをもっとしっかり話し合っ作すべきである。

① 日時

2026年2月4日（水）午前10時00分から午前11時30分

② 訪問先

下関市教育センター

③ 説明者

下関市教育委員会 教育政策課  
加藤課長 中道主任

④ 調査項目

学校の統廃合と小中一貫校について

⑤ 視察先の選定理由や目的

小中学校の適正配置等についての知見を深めるため

⑥ 視察項目の概要説明※資料別紙添付

（導入経緯・内容・実施状況・効果・課題等）

少子化に伴い、市立小中学校の小規模化が進行する中、将来に渡り義務教育の教育水準の維持、向上を図り、子供たち一人ひとりの生き抜く力を育てることができる、よりよい教育環境を実現する。

計画は、平成21年5月に第一期計画策定～令和7年8月、第四期計画策定した。

《人口調査》

下関市

平成27年 268,517人      令和2年 255,051人

小牧市

平成27年 149,462人      令和2年 148,831人

◎いずれも減少している。

対策として学校統合にて、学校適正化をした。小学校が複数統合したほか、5校小中一貫校もある。

《フロー》

学校統合意見交換

保護者や地域住民など合意

協議

準備

学校統合へ

義務教育 9 年間の連続した系統性のあるカリキュラムを編成。6.3 制を基本とし、独自の教育区分を設定する。

相互乗り入れ授業や、小学校における一部の学年の教科担任制などを実施する。小中学校の教員が互いの指導内容、指導方法を理解して、改善に取り組む。9 年間を見通した指導と専門性の高い教員の指導で、学力向上。

- ・ 中 1 ギャップ解消
- ・ 小中異学年の交流が充実

教職員も合同研修会や職員会を実施でき、理解が深まった

施設分離型、施設隣接型において、児童生徒や教員の移動時間を要する。小中教員が頻繁に集合する難しさが課題。

#### ⑦議員からの主な質疑

質 1 小中一貫校教育メリットデメリット

答 1 小中の義務教育が一体的に推進することになり、義務教育 9 年間の育ちと学びを見通し、学びが好きな子供を育成。

中学校区で目指す子供像を設定し、9 年間取り組める。

質 2 予算

答 2 施設隣接型小中一貫教育校の一例 4400 万円。

小中校舎改修、空調新設、LED 更新、校章取替など。

施設一体型 9000 万円。

校舎改修、トイレ洋式化、床改修、照明取り替え、空調設置、校章校名板

など。

#### ⑧ 議員の意見

・耐震性などについて協議を重ねて、はじめの計画とは違う統合となった場合もある。

中には今でも、小規模学校や過去の学校のやり方を否定するのか、などという批判もある。新たに統合する学校は反対などもあり、計画を延長し、今、丁寧に協議している。

・規模や新しい学校へ統合する流れとなるが、統合後の校歌をどうするかが最大の懸念点で話し合いが必要である。

## 視察事項(学校の統廃合の経緯)

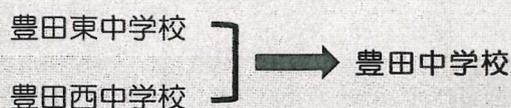
全国的な少子化の中、下関市においても、市立小・中学校で学校の小規模化が進み、児童生徒の人間関係の固定化や多様な物の見方や考え方等に触れる機会の減少、学級数の減少に伴う教職員数の減少など、教育上又は学校運営上の様々な課題が指摘されています。

下関市教育委員会では、こうした課題を克服し、子供たちにとって、よりよい教育環境の実現を目的に、平成21年5月に下関市立学校適正規模・適正配置基本計画を策定し、下関での市立小・中学校の適正規模・適正配置の取組を進めています。

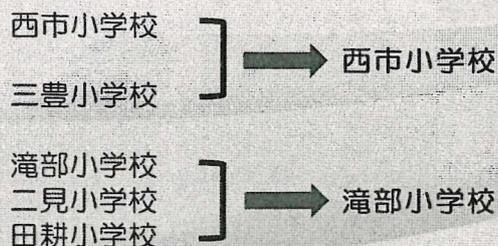
## 視察事項(学校の統廃合の経緯)

### ●下関市立学校適正規模・適正配置基本計画 第1期計画【H21～H26】

平成24年4月



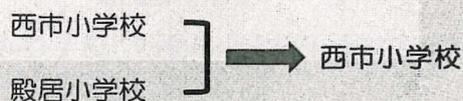
平成27年4月



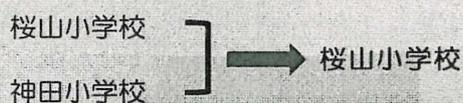
## 視察事項(学校の統廃合の経緯)

### ●下関市立学校適正規模・適正配置基本計画 第2期計画【H27～H31】

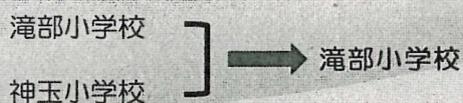
平成28年4月



平成29年4月



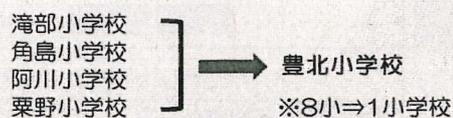
平成31年4月



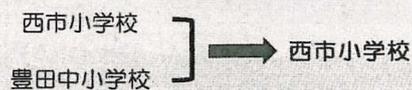
## 視察事項(学校の統廃合の経緯)

### ●下関市立学校適正規模・適正配置基本計画 第3期計画【R2～R6】

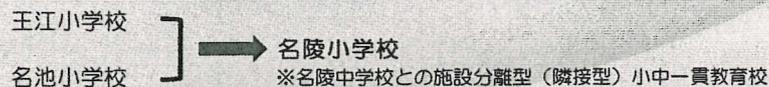
令和2年4月



令和3年4月



令和4年4月



## 視察事項(学校の統廃合の経緯)

### ●下関市立学校適正規模・適正配置基本計画 第3期計画【R2～R6】

令和5年4月

蓋井小中学校 (蓋井小学校+蓋井中学校)  
 ※施設一体型小中一貫教育校

令和6年4月

うつい小中学校 (内日小学校+内日中学校)  
 ※施設一体型小中一貫教育校

令和7年4月

吉見小学校  
 吉母小学校 } → 吉見小学校  
 ※吉見中学校との施設分離型小中一貫教育校

## 視察事項(学校の統廃合の経緯)

### ●下関市立学校適正規模・適正配置基本計画 第4期計画【R7～R11】

	対象校	小中一貫教育校	学校位置
①	文洋中 向洋中		旧神田小学校 (西神田町5-1)
②	関西小 桜山小		桜山小
③	本村小 西山小 玄洋中	施設一体型	玄洋中
④	吉田小 王喜小 木屋川中	施設分離型	王喜小 木屋川中
⑤	樹崎小 岡枝小		岡枝小
⑥	豊田下小 西市小 豊田中	施設分離型	西市小 豊田中
⑦	室津小 誠意小 豊洋中	施設分離型	誠意小 豊洋中
⑧	宇賀小 小串小 川棚小		川棚小
⑨	豊北小 豊北中	施設一体型	豊北中

視察事項(小中一貫校にしたことによるメリット・デメリット)

### ●下関市における小中一貫教育の取組

下関市では、小中一貫教育校だけでなく、全ての小中学校において、コミュニティ・スクールの仕組みを活かし、特色ある教育活動を小・中学校が一体的に推進することにより、義務教育9年間の育ちと学びを見通し、「学びが好きな子供」の育成を目指して、小中一貫教育を進めている。

視察事項(小中一貫校にしたことによるメリット・デメリット)

### ●小中一貫教育に期待する5つの取組の内容

#### ①目指す子供像の設定

中学校区で目指す子供像を設定することにより、小学校と中学校の教職員、地域が共通の目標をもち、9年間の子供の育ちと学びを見通して教育に取り組む。

視察事項(小中一貫校にしたことによるメリット・デメリット)

●小中一貫教育に期待する5つの取組の内容

②カリキュラムの工夫

義務教育9年間の連続した系統性のある小中一貫カリキュラムを編成し、実施する。また、「6・3制」を基本としながら、必要に応じて独自の教育区分を設定する。

視察事項(小中一貫校にしたことによるメリット・デメリット)

●小中一貫教育に期待する5つの取組の内容

③指導方法の工夫・改善

重点的に取り組む教科等を設定し、相互乗り入れ授業や小学校における一部の学年の教科担任制等を実施する。また、学習に関する合同研修会の実施により、小・中学校の教員が互いの指導内容、指導方法等を理解し、指導方法の改善に取り組む。

視察事項(小中一貫校にしたことによるメリット・デメリット)

●小中一貫教育に期待する5つの取組の内容

④児童生徒のつながり

幅広い異年齢集団による学習や体験活動を設定し、望ましい心を育成する教育を行う。

視察事項(小中一貫校にしたことによるメリット・デメリット)

●小中一貫教育に期待する5つの取組の内容

⑤地域とのつながり

コミュニティ・スクールにおける地域貢献や学校支援の取組を推進するとともに、地域素材を活用した学習を小・中学校で一体的に推進することにより、下関の「よさ」を追究し、ふるさとを愛する心を育成する。

視察事項(小中一貫校にしたことによるメリット・デメリット)

●下関市が小中一貫教育校に期待するメリット

①学力の向上

9年間を見通した指導と専門性の高い教員の指導により、学力の向上につながる。

②学校不適応の改善

小中学校間の日常的な乗り入れ授業・交流行事の推進により、いわゆる不登校・いじめ等の中1ギャップの解消につながる。

視察事項(小中一貫校にしたことによるメリット・デメリット)

●下関市が小中一貫教育校に期待するメリット

③自己肯定感・規範意識の高まり

小中異学年での交流を充実することにより、自己肯定感と規範意識の高まりが期待できる。

④小中教職員の意識改革

合同の研修会や職員会等の実施により、小・中学校の教員が互いの指導内容・方法等の理解につながる。

## 視察事項(小中一貫校にしたことによるメリット・デメリット)

### ●下関市が小中一貫教育校に期待するメリット

#### ⑤郷土愛の醸成

コミュニティ・スクールにおける地域貢献や学校支援の取組を推進するとともに、地域素材を活用した学習を小中学校で一体的に推進することにより、自分の言葉で学校やふるさとの自慢ができる。

## 視察事項(小中一貫校にしたことによるメリット・デメリット)

### ●下関市の小中一貫教育(校)における留意点

・施設分離型・施設隣接型において、児童生徒・教員の移動に時間を要すること(前後の時間は引率教員は空き時間にするなどの配慮が必要)や、小・中学校教員が頻繁に集合することの難しさといった課題。

R4 年度 視察事項(予算について)

【例1】 名陵学園(施設隣接型小中一貫教育校)  
(校舎)

既存の校舎(小学校、中学校)を使用

(主要な経費)

約44,000千円

(主な工事内容等)

- ①小・中学校の校舎改修、②空調機器の新設、
- ③照明器具(LED)の更新、④校章取替 等

視察事項(予算について)

【例2】 うつい小中学校(施設一体型小中一貫教育校)  
(校舎)

既存の校舎(小学校)を使用

(主要な経費)

約90,000千円

(主な工事内容等)

- ①校舎改修(児童用普通教室を生徒用へ改修)、
- ②生徒用トイレの洋式化改修、③床改修(教室、廊下)、
- ④照明器具取替、⑤空調機設置、⑥校章・校名板設置 等